

図書館だより



2019年（令和元年）
10月29日・火曜日

第23号

北海道旭川永嶺高等学校
図書館

読書週間が始まりました！

敗戦の2年後の1947年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもと、第1回「読書週間」が開催されました。

第1回の「読書週間」は11月17日から23日。これは11月16日から1週間にわたって開かれるアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなもので「一週間では惜しい」との声を受け、現在の10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）となったのは、第2回からです。

それから70年以上が過ぎ「読書週間」は国民的行事として定着しました。一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まっています。

本年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。

その昔、ギリシャ神話の世界で「ふくろう」は、学問・技芸・知恵を司る美貌の女神アテナの使者であり、また、代表的なポリスで文化の中心地アテナイ（アテネ）の聖鳥でもありました。古代のギリシャ人たちは、賢そうな丸い目ですまし顔の「ふくろう」を知恵の象徴として大切にしていたといいます。

森の奥ふかく、静かに瞑想にふけるこの「ふくろう」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてふさわしいものと考え、読進協では長い間使用してきました。



おススメの本を展示架

各種団体の推薦図書の一部を紹介します。

070（請求記号）

『その情報、本当ですか？』（岩波ジュニア新書866）

塚田祐之 岩波書店

長年にわたってNHKの報道版組ディレクターとして報道にたずさわってきた著者が、報道やネット情報のしくみなどを論じながら情報の正しい読み取り方を伝える。

289（請求記号）

『カルピスをつくった男 三島海雲』

山川徹 小学館

会社の売り上げより国の豊かさ、そして日本人の幸せをひたすら願ったカルピス社創業者・三島海雲。遊牧民の生活から夢の乳酸飲料を着想した男の生涯を辿る人物評伝。6月28日（金）の北海道新聞の夕刊「今日の話題」でも紹介されました。

487（請求記号）

『ほぼ命がけサメ図鑑』

沼口麻子 講談社

怖いとしか認識されていない、サメの本当の姿を世のナから伝えるべく日々奮闘中のシャークジャーナリストが、地球上の海を旅して見たり食べたりの実体験図鑑。

以上、3冊は「2019若い人に贈る読書のすすめ」（読書推進運動協議会）より。

913（請求記号）

『南西の風 やや強く』

吉野万理子 あすなろ書房

難関中学をめざし勉強づけの日々を送っていた少年。ある夏の夜、思いがけない出会いが彼を変え成長させていく。爽やかな青春小説。

この本は「第31回読書感想画中央コンクール」（全国SLA主催）の指定図書。図書室前にポスター掲示。



に排架中です！！

002（請求記号）

『わかりやすさの罫 池上流「知る力」の鍛え方』

池上彰 集英社

本、新聞、雑誌、インターネット、テレビ等に溢れている「安易なわかりやすさ」について、ニュースの世界における「わかりやすさ」の開拓者が明快に解説。

024（請求記号）

『モンテレージョ 小さな村の旅する本屋の物語』

内田洋子 方丈社



ヴェネツィアの古書店主の「代々、本の行商人でした」の一言から、行商人を追う旅は始まった。トスカナの山深い村から本を担いで旅に出た人々。なぜ行商が本なのか。著者はイタリア在住。

913（請求記号）

『ののはな通信』

三浦しをん 角川書店

女子校で出会ったふたりは学校だけでは喋りたりず、手紙を交換しているかけがえのない友人。高校から大学、そして40代になった二人の人生を書簡で描く物語。

以上3冊は、今年度新たに選定された「北海道青少年のための200冊」（北海道青少年育成協会）より。

367（請求記号）

『ヤングケアラー 介護を担う子ども・若者の現実』

澁谷智子 中央公論新社

介護に直面した若者（18歳以下と規定）に関するリポート。理由や環境は様々であるが、孤独な立場と辛さが増幅する現実には厳しい。

この本は、「月の選定図書リスト」及び長期休業向けの「おすすめする本」（北海道学校図書館協会）より。

上記以外にも、新着図書を展示しています。ぜひ来館してお気に入りの本を探してみてください。